

RPPC メールマガジン 第 845 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 10 月 21 日）

■事務局からのお知らせ

1) NPO 法人山形県リサイクルポート情報センターのメルマガを添付致しました。

2) 第 1 回災害廃棄物処理検討部会

日時：10 月 28 日（水）15:00～

場所：みなと総合研究財団 3 階 会議室

Web 併用（Webex）

3) 令和 2 年度 リサイクルポートセミナー

日時：11 月 24 日（火）14:00～17:00

会場：第一ホテル東京シーフォート・YouTube Live 配信併用

（専用アカウント発行）

令和 2 年度テーマ：「with コロナ・CO2 削減時代に リサイクルイノベーション」

※添付のプログラムをご確認ください。

■■セミナーの申込は下記 URL からお願い致します。↓↓

<https://forms.gle/uuuCZrtPepFdCf8y7>

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 日本製鉄、函館港防波堤補強にカルシア改質材を活用

日本製鉄は 10 月 9 日、製鉄の工程で副次的に生産される鉄鋼スラグ製品「カルシア改質材」が北海道開発局函館開発建設部発注（2019 年度）の函館港の西防波堤補強工事において活用されていると発表した。

西防波堤補強工事では、大型クルーズ船への対応のために函館港の若松地区で行われている浚渫工事で発生した浚渫土の有効利用するため、浚渫土にカルシア改質材を混合した「カルシア改質土」を防波堤背後の盛土に活用して補強している。

北海道開発局の直轄工事でカルシア改質土を用いるのは初めて。今年度までの工事でのカルシア改質土の使用数量は 19 万 3 0 1 9 立方 m を予定している。

2.東洋建設ら海面処分場等活用でCO₂固定、石炭灰等のリサイクル技術開発

(一財)電力中央研究所、三菱パワー、東洋建設、(一財)石炭エネルギーセンターはこのほど、CO₂吸収装置や海面処分場による石炭灰等のCO₂固定および資材化に関する技術開発を開始したと発表した。発電等に伴って発生するCO₂を資源として捉え、産業副産物を用いてこれを活用する技術開発を行い、処分場を活用したCO₂固定システムの構築等を目指している。同取組みは「石炭灰およびバイオマス灰等によるCO₂固定・有効活用に関する要素技術開発」として、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の委託事業に応募・採択されている。事業期間は2021年度までの2年間。

3.四国地整が生物共生型港湾整備、須崎港湾口防波堤にカルシア材で実証

四国地方整備局港湾空港部は須崎港湾口防波堤を対象に、製鋼スラグを用いて生物との共生を考慮した港湾整備手法の検討を進めている。国土交通省港湾局では港湾構造物の新設や改良において、海洋生物との共生を考慮した港湾整備手法の検討を進めており、

四国地整の取組はその一環。

須崎港湾口防波堤は粘り強い化への改良工事を実施している。被覆ブロックによって防波堤の港内側に水深が浅い部分が形成されており、海藻移植などの実証試験を進めている。昨年度に続き、今年度はモニタリングを行うと共に新たな種苗育成プレートを設置などを予定している。製鋼スラグを砕石状や板状(プレート)にして海藻を種苗、発芽やその育成効果を追跡調査する。

※港湾空港タイムス10月19日号等から編集

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください